

七ヶ宿町の地域学校協働活動

1 今年度の事業の取り組みについて

七ヶ宿町の協働教育は、協働本部がこれまで実施・調整してきた事業をもとに、地域・家庭・学校が相互に連携して子供を育てる環境づくりを進め、地域・家庭の教育力向上を目指し事業を展開してきた。事業としては、前年度の事業を基本として活動に取り組んだほか、新たに福祉部局とも連携して家庭教育支援の事業を展開することができた。

2 地域学校協働本部について

協働本部：七ヶ宿町教育推進協議会（Ｓ５９年設立 構成員１８名 会議２回／年）

地域学校協働活動推進員：０人 統括コーディネーター：１人 地域コーディネーター：１人

関係団体：七ヶ宿町学校運営協議会（Ｈ２８年設立 構成員１４名 会議３回／年）

3 事業紹介

（１）家庭教育支援

事業名	内 容	備 考
子育て支援講座	親子で体を動かし、子供の発達段階に応じて身に付けたい動きや感覚を養う。	共催：関保育所
「親子で人形劇を楽しむ会」	親子で人形劇を楽しく観劇することによって、子供たちの情緒の発達や人格形成に寄与する。	共催：関保育所、七教進
「親子で遊ぶおもちゃワークショップ」	親子で人形劇の観賞とおもちゃ遊び体験。子育て相談。	
保護者交流支援事業 「おやこ工作・料理教室」	未就学児の保護者を対象に子供の成長や親同士の悩み相談など、育児に関する情報交換の場として設定。 料理の回は健康福祉課が担当し、工作の回は公民館が担当する。	共催：健康福祉課
親子ふれあい料理教室	子供の食育は、小学校頃までが発育・発達の重要な時期であり、成長著しい大事な時期を親子が共に調理体験から食事の大切さを学ぶとともに、愛着醸成を図る。	協力：食生活改善推進員
親子ふれあい工作教室	作品を作ることで、地域の暮らしの魅力を認識、再発見してもらうきっかけとし、町への愛着形成に繋げる。また、ふれあいの機会とし、親子の絆と豊かな心を育むことを目的とする。	陶芸教室



子育て支援講座



保護者交流支援事業「おやこ料理教室」

(2) 地域活動支援

事業名	内容	備考
ジュニア・リーダーの育成	子ども会活動に必要な技術・態度等について学習し、積極的に活動できる次代のリーダーを育てる。 ①S J L C「ぼっぼ組」サークル活動（定例会・研修会） ②青少年指導者研修会（初級研修会） ③地区子ども会へ派遣 ④子ども会育成会事業（クリスマス会）への支援 ⑤自主企画事業（ふるさと祭りへの出店・夏まつり開催・ひなまつり工作）	①会員数：24名 ②理論・実技研修（計3日間） ③令和6年度は要請なし ④工作・レクリエーション ⑤ふるさと祭り（町イベント）、ひなまつり作品は、水と歴史の館特別展に出品
NO！ぼっち運動	高齢者が安心安全に暮らせる地域づくりのため、関係機関が連携し合い横断的な事業を推進する。 ①NO！ぼっち会議 ②NO！ぼっち手紙運動 ③あいさつ＋声がけ運動	①12の関係機関 運動内容の計画、協議 ②町内小中高校の児童生徒から高齢者世帯に年1～2回手紙を郵送（138世帯） ③子供や地域住民、郵便局員など、あいさつ＋声がけを行うよう広報
七ヶ宿総合スポーツ祭2024	体力・運動能力調査の実施と併せてフライングディスクの体験会を実施。参加者同士の交流と技術向上を図る。	協力：スポーツ推進委員



ジュニア・リーダーの育成（初級研修会）



ジュニア・リーダーと遊ぼう（夏まつり）

（３）学校教育支援

事業名	内 容	備 考
地域人材活用事業	学校からの要望に応じ、地域の人材を講師として紹介し、様々な学習活動等を支援する。	事業によって中止・延期有り
	横川交流会（笹巻づくり）（１・２年） イチゴの収穫体験（１・２年） 畑づくり・そば栽培（総合３・４年） 炭焼きと森のお話（総合３・４年） つまようじづくり（総合３・４年） 源流米づくり（総合４・５・６年） 和太鼓演奏（総合５・６年） 租税教室（社会５・６年） 歴史・郷土史（総合５・６年） グラウンド・ゴルフ講習会・大会（全学年） スキー教室・大会（全学年） わらじで歩こう七ヶ宿（全学年） 蛤山登山（３・４・５・６学年）	七ヶ宿小学校
	七ヶ宿町内職場体験（総合１年） 地域交流学習（総合３年） 学校畑電気柵設置（技術３年） 保育実習（家庭３年） 租税教室（社会３年） 人権教室（道徳全学年） 救命救急講習（全学年） 開校記念式典（全学年） スキー教室・大会（全学年） わらじで歩こう七ヶ宿	七ヶ宿中学校
学校音楽祭	町内の保育所・小学校・中学校・高校が一堂に会して発表する音楽祭。児童・生徒の交流	協働本部（町教育推進協議会）が主催

	を図り、町民に子供たちの元気な姿と音楽を鑑賞する機会を提供する。	(保育所は欠席)
七ヶ宿町本読み応援隊	地域ボランティアが保育所や小学校を訪問して絵本の読み聞かせを実施する。	月1回程度
図書利用促進	学校図書の利用促進に向けた取組を支援するため、関係機関を集め、情報の共有、課題を整理・確認するほか、関連事業を組み立てる。併せて町図書の利用促進、子供も大人も一体とした読書推進を図る。	①担当者会議 ②読書通帳の発行 ③スタンプカードの発行 ④生徒作成ポップ作品展示 ⑤木版画ワークショップ



地域人材活用事業（源流米づくり・稲刈り）



地域人材活用事業（地域交流学习）

4 成果と課題

（１）家庭教育支援

- ・健康福祉課と連携して月1回のペースで保護者同士の交流の場を設けることが出来た。参加した保護者の関心が高く、参加状況が良い。ニーズを整理し、持続可能な事業展開をしていくことが課題である。

（２）地域活動支援

- ・今年度は、町の企業から外部講師を招いたり、町で体験できるアクティビティを取り入れたり、ジュニア・リーダーの初級研修の内容をより地域を感じるものにすることができた。サークルには新たに7名が加入し、自主企画にも意欲的に取り組むことができています。部活動等との調整が必要なため、学校との連絡を密にしていくことが求められる。
- ・NO！ぼっち運動では、社会福祉協議会による高齢者が児童・生徒へ手紙の返事を書く支援も継続して行われており、手紙を喜んでくれている高齢者からの声が児童・生徒に届き、意欲向上に繋がっている。

（３）学校教育支援

- ・体験活動や学習活動を通して、地域住民と関わり社会性を養い、地域の一員であることを考え、課題を発見し、行動する機会となった。
- ・本読み応援隊の活動を順調に行うことができた。ボランティアの養成や新たなメンバー募集にも引き続き協力していく必要がある。
- ・小中各校において地域の人材を活用する仕組みが確立されており、スムーズな活用が行われている。事務局は不足した場合等相談を行っている。幅広い人材の確保が課題である。

七ヶ宿町 七ヶ宿町立七ヶ宿中学校(総合的な学習の時間)「地域交流活動」

○市町名 七ヶ宿町

○学校名 七ヶ宿町立七ヶ宿中学校

○期 日 令和6年10月25日(金)

○内 容

総合的な学習の時間(第3学年)

「地域交流活動」

- ・これまでの学習のまとめとして、町の方との交流で得た学びを生かし、生徒自身が考える町の課題の解決に役立つ活動を計画し、七ヶ宿を思い続ける心や七ヶ宿の地域づくりに参画し続けようとする意識を高めさせる。

○講 師

七ヶ宿まちづくり株式会社

地域交流課 課長 成田 知将 氏

株式会社ユズファームワイナリー

代表取締役兼栽培醸造責任者 荒井 謙 氏

七ヶ宿町関保育所 所長 黒澤 千春 氏

シルバー人材センター 新山 秀夫 氏

○指導補助

吉村 さだゑ 氏(わらじ作り)

○生徒の声

- ・特にメニュー開発が難しく「売れるもの」を作るのは、簡単ではないということが身に染みて感じました。更に原価計算では、様々なことが考えられて1つの商品が作られており、とてもやりがいのある仕事だと思いました。今回、体験したことは将来必ず役に立つと思うので、社会に出たときには思い出して活動していきたいです。(こ・らっしえでの活動)



- ・たくさんの子供と遊んだり、話したりしてとても楽しかったです。また、担当の先生の注意の仕方がとても上手で、子供たちは先生の話をよく聞いていたのが印象的でした。私は将来保育士になりたいので、先生のようにしっかりと注意ができて、好かれる先生になりたいと思いました。地域貢献できたかは不安ですが、とても良い経験をさせていただきました。(関保育所での活動)



- ・初めての果物の収穫は大変だとは思っていましたが、広大な敷地を3人で収穫から販売、ジュースへの加工まで手掛けており、それに驚きました。荒井さんは、ぶどう一つ一つに最高の品質を求めている、ぶどう栽培やワインづくりに対して、とても情熱をもって取り組んでいらっしゃるのだと思いました。(ユズファームワイナリーでの活動)

- ・わらじ作りはとても難しいことが分かりました。昔の人は、自分のわらじを自分で作っていたという話を聞いたときにはとても大変だと思いました。講師の方に分かりやすく教えてもらったので、何度も練習すれば自分でも上手に作れるようになると思いました。今回の活動では、2回しか教わるができなかったの



で、冬のわらじ講習会に参加して、一人でも作れるようになりたいです。

(わらじ作り活動)

- ・今回の活動では、成田さんから「や・すまっしえを利用しているお客様にアンケートをとる」という案をいただき、「や・すまっしえの満足度



や七ヶ宿町の認知度を測る」ということを主目的として活動しました。活動の中で、お客様にアンケートをとっていた際に私が声をかけられなかった方に、アンケートの協力を呼びかけていただく場面があり、助けていただきました。おかげさまで、目標以上の回答数を集めることができ、アンケート結果を充実させることができました。今後は集計結果を分析し、七ヶ宿町を知ってもらえるためにどのように発信していくべきなのかを考えたいです。また、七ヶ宿町に還元するために自分にできることは何かを考え、取り組んでいきたいです。

(や・すまっしえでの活動)

○講師から

- ・この学習は、自分たちの職場や仕事を知ってもらうと同時に、中学生を知ることだと感じました。今の中学生がどういう取組をしている、どういうことを考えているのか知ること、は、“地域の大人”として、これからどう学校と関わるかを考えるきっかけになりました。特に弊社は“まちづくり”をする会社なので、地域との協働は不可欠です。しかし、学校と接する機会は少ないので、よいきっかけでした。これからも継続して関わることでお互いに経験を高め、より良いことにチャレンジしていきたいです。ゆくゆくは、この取組をした学生が大人になった後、“地域の人”として関わってくれることを期待しています。

(七ヶ宿まちづくり株式会社:成田 知将 氏)

- ・予想以上に一生懸命取り組んでくれました。今年から、町内外の高校生との交流もあったなか、地元の子供ということもあり、気持ち

が入った状態でやってくれているのを感じました。実際に畑を歩いて広さを感じたり、採れたての果物を食べて買ったものとの違いを感じたり、こういう機会は貴重だと思います。今回のように地元の若い子にも知ってもらい、将来的にその子の中に残ってくれればと思いました。

(株式会社ユズファームワイナリー:荒井 謙 氏)

- ・中学生が来てくれて、園児たちも喜んでいました。短時間でしたが、やれることを見つけて積極的に動いてくれました。将来の進路選択のお役に立てたなら良かったと思います。

(七ヶ宿町関保育所:黒澤 千春 氏)

- ・わらじ作りを覚えようと生徒が来てくれて嬉しかったです。回を重ねるごとに上手になっていきました。今後開催するわらじづくり講習会にも来てくれるのを期待しています。昔はわらじの作り手がたくさんいましたが、今では少なくなって寂しいものです。地元の子供がやろうとしてくれるのは嬉しいことです。もっと誰でも来てくれると良いなと思います。

(わらじ作り:吉村 さだゑ 氏)

○教職員の声

1年生からの学習を踏まえ、今回の地域交流活動を行いました。企画書の作成から始まり、このプロジェクトを通して、自分や協力者の方、そして町にとって良いことは何かを考え、プロジェクトのゴールを定めました。5つの事業者様にご協力をいただき、実際に収穫や製作、アンケートの実施など、自分たちが考えた課題解決法を实践させていただきました。受け継がれてきた歴史、商品づくりに対する思いや苦労なども教えていただくことで、生徒は地域の特色や町の人の温かさを感じることができました。今回の活動を通して、生徒自身が町のためにできることは何かを考え、今後も町を思い続けることや社会に参画していこうとする意識を高めることができました。今回の活動が充実できたのは、ご協力いただいた方々の様々なご支援の賜物です。本当にありがとうございました。



七ヶ宿町立七ヶ宿小学校

〒989-0525 刈田郡七ヶ宿町字利津保 16-1
TEL 0224-37-2320
FAX 0224-37-2326
児童数 45名 P会員数 33名
E-mail chidef-chidef01@town.shichikashuku.miyagi.jp



地元のそば職人の
協力による
そばづくり体験学習

地域の方と
ともに登る
全校蛤山登山

町が一体となって
取り組む
わらじで歩こう七ヶ宿

地元のスキー場で
地域ぐるみで行う
スキー学習

かしこい子

やさしい子

たくましい子

学校教育目標 「かしこく、やさしく、たくましい児童の育成」



七ヶ宿町立七ヶ宿中学校

〒989-0529 宮城県刈田郡七ヶ宿町字瀬見原1 生徒数 24名
TEL 0224-37-2360 FAX 0224-37-2387 P会員数 22名

地域課題解決に住民と一緒に挑戦
地域交流学習



総合的な学習の時間で見出した七ヶ宿町の
地域課題の解決に、地域の方々から協力を
得ながら長期で取り組みます。活動発表会
では町長からアドバイスもいただきます。

地域の方と一緒に地域を学ぶ
町を学ぶ特別授業



教科・領域との関連を図りながら、地域の
様々な現場で活躍する方を講師に招き、特
別授業を開催します。地域からの参加者も
募り、一緒に学び合うことを大切にします。

全員が町のイベントスタッフ
わらじで歩こう七ヶ宿



他地域からの参加者へのガイドや休憩所補
助などの活動を通し、様々な人との交流を
深めるとともに、地域の一員である意識を
高めます。

大河原町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

大河原町教育委員会では、子供を地域全体で育むために、家庭・地域・学校をつなぐ仕組みをつくり、協働による教育活動を通じ、家庭・地域の教育力向上を目指す「地域学校協働活動」を推進している。

2 地域学校協働本部について

大河原町地域学校協働本部にて協働教育に関する組織的な目標及びビジョンの共有を図り、多くの地域住民や団体等の参画、活動のネットワーク化に繋げていくとともに、町内小中学校の学校運営協議会との連携を図っていく。

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内 容	備 考
子育て親育ち講座	保護者または親子が集まる機会に、子供とのふれあい活動や、講話などを通して家庭の教育力向上を図り、子育て親育ちの一助とする。 内容：幼児と楽しむふれあい体操や講話 防犯講座 他	会場：保育園・幼稚園 児童厚生施設及び小・中学校等 対象：幼児・児童・生徒及び保護者 又は保護者のみ 参加者：延べ 1, 102名
子育てサポーター養成講座	子育て支援を行う「子育てサポーター」の養成を通し、家庭教育や子育てに悩む親を地域全体で支援する環境づくりと社会意識の醸成につなげる。	会場：大河原町中央公民館 回数：3回 参加者：延べ39名、修了者8名
夏休み親子手作り絵本教室	世界で一つの絵本作りを体験し、子供たちの創造性と想像力を育み、本への愛着や親しみを深める。	期日：8月5日・7日・8日 会場：大河原町中央公民館 対象：幼児及び小学生、保護者 参加者：14名（10組）



子育て親育ち講座



子育てサポーター養成講座



夏休み親子手作り絵本教室

(2) 地域活動支援

事業名	内 容	備 考
ジュニア・リーダー事業・研修会	中高生を対象に、地区子ども会活動の支援や地域活動を行うリーダーとして、様々な知識や技術の習得を目指す。 ・定例会（月１回） ・初級・中級・上級研修会 ・地区子ども会、親子会、児童厚生施設等への派遣 ・自主企画イベントの開催	在籍数：高校生 11名 中学生 7名 小学生 1名 計 19名 活動場所：中央公民館
チャレンジキャンプ蔵王！（インリーダー研修会）	地区子ども会活動の中心的役割を担う小学４・５・６年生を対象に、他校間の交流や、野外活動等を通じ、子供の自主性・主体性を養い、子ども会の良きリーダーとしての知識や技術の習得を目指す。	対象：小学４～６年生 参加者：３８名 児童 ２８名 J L １０名
青年会支援事業	小学生親子を対象としたイベント企画の開催 ・東の寺deきもだめし	参加者：親子１３組



ジュニア・リーダーと遊ぼう会



インリーダー研修会



ジュニア・リーダー定例会
（青年会との顔合わせ）

(3) 学校教育支援

事業名	内 容	備 考
職場体験	町内各事業所への連絡調整を図り、取りまとめるを行う。	対象：大河原中学校 金ヶ瀬中学校 ２年生
中学生子育て理解講座	家庭科の学習支援として、町保健師による講義や指導のもと、沐浴人形を使用したおむつ替え体験や妊婦シミュレーターを装着しての妊婦体験を行う。	対象：大河原中学校 金ヶ瀬中学校 ３年生

事業名	内 容	備 考
学校支援 ボランティア事業	町内小中学校からの支援要請に応じ、学校支援ボランティアを派遣する。 ○1年生お世話し隊（下校見守り、給食支援、見学・体験学習引率） ○クラブ活動支援（囲碁・将棋、家庭科、茶道） ○図書関係支援（貸出、読み聞かせ、整頓） ○環境整備支援（理科室、畑整地、植栽） ○音楽関係支援（ピアノ伴奏、民謡指導、琴体験） ○学習支援（裁縫指導、ミシン修理、食育、サツマイモ苗植え・収穫、昔あそび、など）	場所：大河原小学校 大河原南小学校 金ヶ瀬小学校 大河原中学校 金ヶ瀬中学校
職業人に話を聴く会	様々な分野で活動する方々の話を聴くことで、職業への関心を高め、将来の進路選択に対する意識や職業観を磨く。学校から要請のあった職業分野について、就業している方への依頼や、連絡調整等を図る。	対象：大河原中学校 金ヶ瀬中学校 1年生



中学生子育て理解講座

（４）放課後子供教室

放課後の時間を活用し、地域の様々な大人との交流や多様なプログラムを通して、地域の子供を育てる環境づくりをしている。また、「放課後子ども総合プラン」に沿った児童クラブとの連携を推進している。

事業名	内 容	備 考
大河原小学校 ほうかご寺子屋	活動内容：学習支援、講師による特別教室 （科学実験教室・レクリエーション）等	活動場所： 大河原小学校 （P C 教室）

大河原南小学校 放課後子供教室	活動内容： ACP活動、伝統文化継承活動（和太鼓演奏、かるた取り体験、けん玉体験）、野外活動、田植え体験、餅つき大会、茶道体験、百人一首体験 他 ※平成30年度より、NPO法人子ども育成支援団体キハト会へ業務委託を行っている。	活動場所： 大河原南小学校 (アッセンブリホール)
金ケ瀬小学校 放課後子供教室	活動内容： 科学実験教室、七夕飾り制作、ハンドベル・トーンチャイム発表会、餅つき大会、たこあげ大会、百人一首大会、太鼓演奏、仙台大生によるレクリエーション活動 他	活動場所： 金ケ瀬公民館 (大集会室)



大河原小学校（学習支援）



金ケ瀬小学校
(ハンドベル・トーンチャイム演奏)



大河原南小学校（田植え体験）

4 成果と課題

○家庭教育支援事業

子育て親育ち講座や子育てサポーター養成講座、夏休み親子手作り絵本教室など各事業において多くの参加者を集め好評であった。子育てサポーター養成講座修了者へ活動の場の情報提供を行い、町の家庭教育支援チームへ数年ぶりの新しい加入者もあった。このことで、活動が活発になっており、引き続き新たな人材の確保を進め、現代のニーズにあった支援のかたちを目指していく。

○地域活動支援事業

ジュニア・リーダー事業については、宿泊による初級研修会やインリーダー研修会により様々な技術や知識を習得するとともに協調性を育む良い機会が提供できた。今後は、ジュニア・リーダーが、より責任感と自主性を養えるよう、活動の内容や進め方やなどを工夫していく。

○学校教育支援事業

学校支援ボランティア事業については、登録更新及び各学校を訪問し実状の把握に努めた。今後も各学校との連携を図り、学校側のニーズに合わせた派遣及び活動を行っていききたい。

○地域学校協働活動

大河原町地域学校協働本部立ち上げ以来、研修会や協議を通して組織的な目標及びビジョンの共有が徐々に浸透してきた。教職員や地域住民への周知活動を通して広く地域学校協働活動の推進に努める。

大河原町 大河原町立大河原南小学校「『南小オヤジの会』による防災キャンプ」

○市町名 大河原町

○学校名 大河原町立大河原南小学校

○期 日 令和6年10月5日(土)~6日(日)

○内 容

「南小オヤジの会」主催の防災キャンプ

- ・大規模災害の発生でライフラインが途絶えても生き抜く力を身に付けるため、避難所生活の疑似体験を行う。

○講 師

南小オヤジの会

会 長 泉 信行 氏

副会長 渡邊 正恭 氏

山家 剣 氏

平間 晃 氏

佐藤 義則 氏



○南小オヤジの会の活動概要・設立の趣旨

令和2年7月16日設立 現会員17名

設立の趣旨 大河原町立大河原南小学校の児童に多種多様な経験をさせ児童の成長の一助となることを目的とする。また、会員の親睦も目的とする。

年間活動 防災キャンプ、南小 PTA 活動への参加、学校運営協議会への会長参加、総会、懇親会、町公園サポーターとして年5回の公園の除草活動

○児童の声

- ・はじめは難しいと思っていましたが、誰でも気軽に体験できるものでした。竹で食器を作るなどのいろいろな体験はとても楽しかったです。(6年女子)



- ・どのくらいの降水量で家の一階まで浸かるのかということや、非常食が約5年ももつことが分かりました。いろいろ初めて分かったことがあって楽しかったです。来年は手伝いに来たいです。(6年女子)



- ・最初はちゃんとできるかなと不安でした。でも、友達やスタッフの方、先輩方から優しく「こうやるんだよ」と教えてもらったので、しっかり体験ができとても楽しかったです。(6年女子)



・防災キャンプでは、いろいろな体験をしました。特に楽しかったのは、ドラム缶風呂です。自分たちのちょうどいい温度に調節して入るのが楽しかったです。（6年女子）

・竹の食器作りなど、最初は「難しい、絶対できない」と思っていたけれど、楽しいし意外と簡単だなと思いました。作った食器を使って、夜ご飯はピザやラーメンを食べました。とても楽しい体験ができました。（6年女子）



○講師から

会長 泉 信行 氏

子供たちに生きる力を身に付けてもらいたい！こんな時どうすれば良いか…を考えてもらいたいですね。地域として関わることで、子供たちとの繋がりを持てることを、これからも大事にしていきたいです。

平間 晃 氏

日頃から地域の人たちと関係を密にし、自主的に活動できる人材が多い地域は「災害に強い地域」です。南小オヤジの会主催「防災キャンプ」で、そのような人材を小学校6年生から育てたいと思います。

佐藤 義則 氏

この防災キャンプは、町の指定避難所になっている南小学校に泊まり避難所体験をしてもらいたい、との思いで行っております。また、授業でできないことをオヤジたちの技術を生かし体験してもらえよう工夫して実施しております。



○教職員の声

竹で食器を作ったり、ドラム缶のお風呂に入ったりと、普段はできないような貴重な体験をすることができていました。楽しみながら災害について知り、防災への意識を高めることができていたので良かったと思います。

（6学年担任）

○教育事務所から

地域の子供たちのために主体的に活動を展開する会の皆様の思いが、着実に子供たちの心に響いていました。この活動に魅力を感じた卒業生が支援者として加わる姿もすばらしいです。多世代交流がさらに広がり、大人も子供も笑顔あふれる活動が数多く実践させることを期待します。

大河原町立大河原小学校

〒989-1241 宮城県柴田郡大河原町字町100
電話 0224-52-3401 FAX 0224-52-3402
児童数 805名
P会員数 624名
仙台大との連携



宮城県民謡「さんまの踊り」を大河原児童協会の皆さんに教えていただき、音楽発表会で披露した。

がランディアの皆さんに絵本などの読み聞かせを行っていただき、子供たちが多くの本と出会う機会を得ることができた。

仙台大との連携により、最新の機材や研究成果に基づいた、体育の授業実践を、大生と共同で行った。



大河原町立金ヶ瀬小学校
児童数 191名
P会員数 148名
プログラミング学習
ICT機器を活用した授業づくりに取り組み、思考力や創造力を養っています。

伝統芸能の保存活動
創立150周年記念
昭和 創立150周年を迎えました。これから一人一人の活躍が輝く学校を目指します。

千989-1224 宮城県柴田郡大河原町金ヶ瀬字居掛21
電話 0224-53-1366 FAX 0224-53-4246



大河原町立大河原南小学校

〒989-1707 宮城県柴田郡大河原町
大河原南小学校入町字地1
TEL 0224(53)4220 FAX 0224(53)4223
全校児童数 239名
PTA会員数 187名



小中学校合同で、朝・集団朝会を実施しました。区長さんを中心とした多くの皆さんが応援をいただきました。上級生から下級生まで進路上の危険について学ぶことができました。

ゲストティーチャーをお招きし、合唱指導をしていただきました。各学年すばらしい合唱や音楽を披露していました。また、ほのの学年の発表を聞き、感想を手紙で伝え合いました。



大河原町立大河原中学校
〒989-11247 宮城県柴田郡大河原町字車1番地
TEL (0224) 52-3501 FAX (0224) 52-3502
生徒数 587名
防災学習発表会
避難所開設訓練
小中合同防災のつどい
居住地区の児童・生徒、住民が協同で防災訓練を行い、地域内との連携を強めている。





KANSAS

junior high school



志集会 (城南高ダンス部)

令和5年度は仙台城南高等学校ダンス部の皆さんをお招きして、バフォ・マスを披露してもらい、最後一踊に臨みました。毎年様々な講師の方に来ていただき、自分の将来を考える機会にしています。

堤神楽講習会

「堤川東洋地城の伝統である『堤すそ』を受け継ぐ。小学校卒業以来の久習会」を主眼に開催しました。小学教員、音楽科の先生、さらには地域の楽器演奏家も参加し、大規模な演奏会となりました。

桜に関する学習

1年生を本教材に総合的な学習の時間を使い、「桜の子入れの方法や知識する学習」を行っています。桜の先生に教わりました。

村田町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

むらたっ子応援団事業では、家庭・地域・学校の連携・協働のもと、子供たちの学びの充実を図る活動を展開している。また、活動をとおして生まれる「人とのつながり」を重視し、地域が一体となって子供たちを育む体制づくりを目指し、併せて町民が培ってきた知識や技能を活用する機会の充実を図っている。

2 地域学校協働本部について

(1) むらたっ子応援団協議会

子供たちを地域全体で育むため、家庭・地域・学校の関係各者が連携し、子供たちの「学び」の充実に向け、事業全体の活動方針・計画の策定や活動の助言・指導、評価・検証を行う。

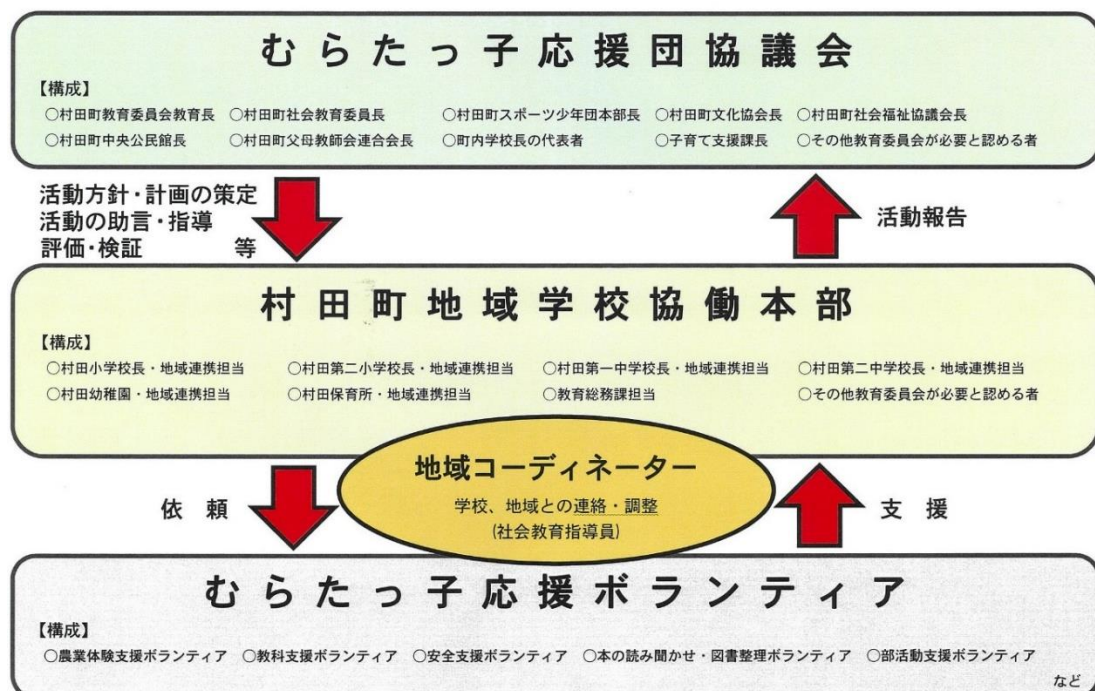
(2) 村田町地域学校協働本部

むらたっ子応援団協議会で立案された計画や方針、事業の評価・検証に基づき、子供たちや保護者の学びを充実させるための取組を行う。

(3) コーディネーター

町教育委員会生涯学習課の社会教育指導員が統括コーディネーター（兼地域コーディネーター）としての役割を担う。

令和6年度むらたっ子応援団事業組織全体図



3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内 容	備考（会場・対象・参加人数）
家庭教育学級	講話「わらべうたをとoshた親子のふれあいについて」 講師：宮城わらべうたの会 武石 麻弥 氏 ・子供と一緒にわらべうたを歌ったり手遊びをしたりすることで、どのように親子のふれあいが深まるかについて保護者が学ぶ機会を提供した。	1. 村田幼稚園 会 場：村田幼稚園 参加者：保護者 46名 2. 村田保育所 会 場：村田保育所 参加者：保護者 78名
	「親子ふれあい体操」 講師：村保（株）こども体育研究所 村幼 カワイ体育教室 ・年齢に適した親子でできる体操をとoshて、親子でふれあう手法を学び、家庭での親子のよりよいコミュニケーション能力を育成する機会を提供した。	1. 村田保育所 会 場：村田町民体育館 参加者：親子 92組 2. 村田幼稚園 会 場：村田町民体育館 参加者：親子 49組



【家庭教育学級】

(2) 地域活動支援

事業名	内 容	備考（会場・対象・参加人数等）
子ども体験学習クラブ	「常夜灯に絵を描こう！」 ・絵付けをきっかけとして、自分たちの祖先を意識するとともに、お盆に対して興味関心をもってもらうことを目的に実施した。	会 場：村田町中央公民館 参加者：小学生 46名
野外活動体験事業	①「夏の子ども村キャンプ」 ②「春の子ども村キャンプ」 ・ジュニア・リーダーの指導のもと、異年齢集団でのキャンプ生活をとoshて、思いやりや自主性、たくましく生きる力を養うことを目的に実施した。	①会 場：蔵王自然の家 参加者：小学生 60名 ジュニア・リーダー 23名 ②会 場：村田町中央公民館 参加者：小学生及びジュニア・リーダー (3月開催予定)

蔵の町むらた 布袋まつりに 参加しよう (山車の引き手)	昔から伝わる地域の風習や芸能と いった「伝統行事」を実際に体験する ことで、郷土の祭りに愛着を持たせる ことを目的に実施した。	会 場：村田町内 参加者：小学生 28名 保護者 15名 ジュニア・リーダー 28名 ジュニア・リーダーOG 2名
ジュニア・ リーダー活動 (会員28名)	「マボック発表会」 ・ジュニア・リーダーが自ら企画した 手作りのクリスマス会を子供たち にプレゼントすることで、お世話に なった人に対する感謝の気持ちが もてるようにするとともに、地域ボ ランティアの活動をとおして、自主 性や協調性を養い、青少年リーダー としての資質・能力をさらに高める ことを目的に実施した。	会 場：村田町中央公民館 参加者： 小学生 37名 ジュニア・リーダー 14名



【夏の子ども村キャンプ】



【マボック発表会】



(3) 学校教育支援

事業名	内 容	備考（実施機関）
安全支援（登下校時）	児童生徒の登下校時の安全見守り	村田小学校・村田第二小学校
安全支援（校外活動）	園外保育	村田幼稚園・村田保育所
本の読み聞かせ活動	本の読み聞かせ（朝・放課後）	村田小学校・村田第二小学校・ 村田幼稚園
教科支援	歴史の学習、文化体験、書道指導 等	村田小学校・村田第二小学校・ 村田第一中学校
農業体験学習支援	野菜等の栽培・収穫、紅花の栽培・収 穫、米づくり、大豆栽培、等	村田幼稚園・村田保育所・村田小 学校・村田第二小学校・村田第二 中学校
行事支援	七夕飾りづくり、餅つき会、だんごさし 体験、凧あげ 等	村田第二小学校・村田幼稚園・ 村田保育所
部活動支援	村田第一中学校総合文化部、村田第二中 学校卓球部	村田第一中学校・村田第二中学 校



【味噌づくり体験】



【田植え】



【昔の遊び】



【紅花染め】



【ガラス細工】



【餅つき】

(4) むらたっ子応援団事業における研修会等

事業名	内容	備考（会場・対象・参加人数）
むらた庭木剪定 講習会	庭木剪定の技術向上 活動とおした生徒との交流 新規ボランティアの養成	①村田第一中学校 むらたっ子応援ボランティア 及び一般町民 8名
		②村田第二中学校 むらたっ子応援ボランティア 及び一般町民 8名



【むらた庭木剪定講習会】

4 成果と課題

子供たちの様々な「学び」の場面で、学校・家庭・地域が協働することによって、子供たちの教育環境を充実させるとともに、町民がこれまでに培ってきた知識や技能を活用する機会の拡充を図ることができた。引き続き、教員や保護者、地域ボランティアなどが一体となって、子供を育てる体制を強化していくことが重要である。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は、以前とは違うやり方を工夫したり、新たな取組を始めたりする動きが見られる。引き続き、計画的に活動を進め、地域連携担当や地域ボランティアと継続的に意見や情報を共有し、連携・協働を図っていきたい。

村田町 村田町立村田小学校(総合的な学習の時間)「紅花染め体験」

○市町名 村田町

○学校名 村田町立村田小学校

○期 日 令和6年11月29日(金)

○内 容

総合的な学習の時間(第6学年)

「紅花で栄えた村田町

～紅花染めを体験しよう～」

- ・紅花染めの体験を通して、村田町がかつて紅花で栄えた歴史があったことを理解する。

○講 師

草木染工房 野乃色 柴田 眞理子 氏



○児童の声

- ・紅花染めはとても楽しかったし、おもしろかったです。一番楽しかったことは、模様をつけるために布を輪ゴムで止めたり割りばしではさんだりしたことです。おもしろかったことは、染料が布に吸い込まれて、とう明になっていくことです。一番染めなどで色が違うことも初めて知り、おどろきました。においはちょっと苦労しましたが、とても楽しかったです。ありがとうございました。



- ・初めての紅花染めで、どんな模様ができるかわくわく・ドキドキがいっぱいでした。紅花はあまいにおいだと思っていたけど、とてもすっぱいにおいがしておどろきました。また染める機会があれば、お手本を見せていただいた青色にも染めてみたいと思いました。



- ・紅花染めを教えていただきありがとうございました。ビー玉や輪ゴム、割りばしだけでもいろんな模様ができて、すごいなと思いました。村田町の紅花の伝統がこれからも続くように、応援したいと思います。



- ・私は紅花染めで楽しかったことが1つ、大変だったことが1つありました。楽しかったことは、割りばしやビー玉を輪ゴムで止めることです。輪ゴムをくるくると回して止めるので楽しかったです。大変だったことは、布を紅花の色素の中に入れて、混ぜていくところです。割りばしやビー玉が引っかかって、混ぜるのが難しかったです。また、酢などを入れていたので、すっぱいにおいがたくさんし

てくさいと思いました。大変なこともあったけれど、きれいなピンク色に染めることができたのでうれしかったです。早く家族に自まんしたいです。



- ・紅花染めをやって楽しかったことは、模様をつけることです。模様をつけるためには割りばしやビー玉、輪ゴムで布を結ぶことが分かりました。私はビー玉を使って水玉模様にしました。きれいにできてうれしかったです。きれいな模様になっている人がたくさんいて、すごいなあと思いました。班で協力して紅花染めをするのがとても楽しかったです。またやる機会があったら、家族でやってみたいです。



○講師から

毎年講師として関わらせていただいている活動ですが、今年も子供たちと一緒に紅花染めをすることができ楽しかったです。布を絞る活動では、始めは戸惑っている子供たちもいましたが、どの子供も説明をよく聞き、すてきな紅花染めの作品ができたので安心しました。通常よりも紅花の量を増やして染料を作り持ってきたのですが、きれいに色が出て良かったです。

(柴田 眞理子 氏)



○教職員の声

自分たちで種から育てた紅花が、染め物になって手元に残ることがとてもうれしそうでした。また、一連の体験を通して、村田町の歴史について改めて知るいい機会となりました。この伝統的な紅花染めが今後も続いてほしいです。



○教育事務所から

染めの美しい発色、思い思いに付けたきれいな模様を目にした児童は、改めて地域の歴史や伝統のすばらしさを実感できたと思います。



村田町立村田小学校

新しいことば・暖かさを きれいな心での花を 大事にしよう 自分の夢を！

〒989-1305 宮城県柴田郡村田町大字村田字通6 TEL 0224-83-2049 FAX 0224-83-2136 児童数 290名



ホームページをご覧ください

地域と連携した教育活動（地域学校教育活動）

4年 SUGO『夢教室』

☆バイクへの乗車体験やプロレーサーのトークなど夢が持てる貴重な体験ができました。

6年 『紅花を育てよう』

☆「紅花」を育てて収穫する活動を通して、村田町の歴史や伝統について学びました。

全校 『絵本の読み聞かせ』

☆図書ボランティアの方に絵本を聴いてもらうことをとても楽しみにしている子供たちでした。







村田町立村田第二小学校

教育目標：夢と志を持ち、自分らしく生きる人間性豊かな児童の育成

〒989-1321 柴田郡村田町大字沼辺字籠田 72
TEL：0224-52-5922 FAX：0224-52-6550
児童数：110名

地域の伝統を支える 学習支援活動



左隣農家の皆様から、地域に伝わる伝統を、五感を通して学んでいます。

読書環境を整える 読み聞かせ活動



ボランティアの皆様の読み聞かせを通して、読書への関心を高めています。

地域の知恵と技が生きる 農作業体験活動



紅花農家やJAのご指導を通して、村田町の特産物を知っています。

村田町立村田第一中学校



〒989-1305 宮城県柴田郡村田町大字村田字小森02
電話 0224-83-2104 FAX 0224-83-5966
生徒数 182名

布袋まつり 交通安全・人垣運動 一中庭木の剪定作業



独自の創作山車で町に祭り出し、町と大衆に合わせ、町、町の伝統を引継いだ。

村田高校生と交通安全活動を通して、地域の交通安全活動に貢献した。

地域のみなさんとコミュニケーションを取り、ボランティア活動に取り組んだ。



村田町立村田第二中学校

1947年（S22）創立

「燃やせ二中制」～高めよう！主体性と表現力～
「学ぶ心」「感じる心」「贈える心」
村田二中 三つの心

〒989-1321 宮城県柴田郡村田町大字沼辺字二丁目32番地
電話 0224-93-2428 FAX 0224-93-5211
info@mura-2-jhs.murata-town.ed.jp
生徒数 68名（1年：24名 2年：18名 3年：27名）

『米づくり』『紅花栽培・加工』体験学習

地域学校連携活動推進事業「むらたっ子応援団」の支援を受けて

3年間を通して、縦断グループで行う2日間の「農業体験学習」は、4年ぶりに地域の農業による「農業体験学習」を行った。

「田植え」「稲刈り」「稲の「種まき」「稲花の「加工」」「稲刈り」の「加工」

「稲花の「種まき」」「稲花の「加工」」「稲刈り」の「加工」

「稲花の「種まき」」「稲花の「加工」」「稲刈り」の「加工」

『の事業』『夢教室』

「夢教室」の「夢教室」の「夢教室」

「夢教室」の「夢教室」の「夢教室」

「夢教室」の「夢教室」の「夢教室」